

 大阪府立中之島図書館だより

ふにわづ

2006. 9 No.140

知的創造の場 それが図書館

鳴澤 成泰

図書館というと本をただで貸してくれるところ、静かに本を読める場、勉強に便利な場所など人によって受け取り方はさまざま。それではあなたはどんなふうに図書館を捉えていますか。

紀元前に存在したエジプトのアレキサンドリアにあった図書館は、70万からなる巻物、書籍がある知の宝庫であったと言われていました。紙のない時代、人々はパピルスや羊皮紙に文字を書いて残しました。そのような図書が70万もあったというのです。それは権力や金だけで集まったわけではありません。世界中からそこにある図書を読むために多くの学者が集まり、読むためには何か一冊図書を持ってくる必要があったといえます。当時の本は印刷ではありません。自分の書いた本や原本から自分の手で書き写した本、それを持参したのです。図書を中心として人々の交流が生まれ、新しい学問が発達していきました。図書はますます増え、そしてそれゆえにさらに魅力を増して人々をひきつけたわけです。

中之島図書館はどうでしょうか。住友吉左衛門氏の寄贈により、明治37年に開館しました。建設費、書籍費、その後の増築費など住友家には並々ならぬご支援をいただいてきましたが、その蔵書には前身の大阪書籍館時代のものを引き継ぎ、また個人や企業など多くの方々の寄贈や寄託により蔵書を充実させてきました。中之島図書館所蔵の貴重書や和書の多くがそのようにして蓄積されてきたものです。

府立の図書館は原則として図書を廃棄しません。知識を蓄積し、広く利用していただくためです。そして図書館だからこそ、利用を前提に整理しています。

人間は多様です。いろいろな考え方があり、興味関心も違います。それぞれの人が自由に自分の関心

のある事柄を探求し、その成果を社会に発信することにより、人間社会は発展してきました。図書館の図書も多様な視点から調べ、読み込まれることにより新しい価値を創造します。そして図書を通じて社会の進歩に資する多くの成果が得られることが、寄贈していただいた方々の願いでもあります。何か興味があることがあればぜひ図書館の司書に聞いてみてください。広い知識の大海原にどのように行けばいいか、水先案内人としてご案内できると思います。

近年の図書館は大きく様変わりしました。図書館の相互利用が大きく進み、府下の市町村立図書館だけではなく、国立国会図書館や大学図書館までもが相互利用の対象として、図書を閲覧できるようになっています。そういうものの検索や閲覧のための依頼なども中之島図書館でできます。IT化も進みました。一度大阪文献データベースをご覧になってください。<http://refdb.library.pref.osaka.jp/> 中之島図書館がこだわって収集整理してきた、およそ大阪に関係する図書、大阪の作家物、大阪を書いた資料など、膨大な資料の中から、調べたいものをキーワードで一発検索できます。

いろいろな人に図書館という社会資源をもっと活用していただきたい。ビジネスのヒント探しや研究、学習に存分に生かしていただきたい。私たちも、多くの先人が収集整理した資料も、最近整備しているデータベースなどのデジタルツールも、皆さんの利用をお待ちしています。

最後に私たちのサービスを発展させ、後世に貴重な資料を残し伝えていくために、保有されている貴重な図書の御寄贈や資料収集のための資金提供などお考えいただければ幸いです。

(府立中之島図書館長)

大阪府立中之島図書館百周年記念

『大阪百人一首』入選・入賞歌の発表報告

開館百周年記念基金運営事業の一環として平成17年9月1日から9月30日まで「大阪百人一首」の短歌募集を行いました。アメリカ、台湾など内外の方々から867首にも及ぶご応募があり、選者は道浦母都子氏にお願いして入選歌100首の発表をしました。併せて100首の中から最優秀賞1首、優秀賞3首が決定しました。

最優秀賞 手作りの蘭和辞典を奪ひあひ俊英学びし北の適塾
 優秀賞 首都の夢みたかもしれぬ中之島水とうとうと獅子（ライオン）の橋
 ここからの眺めが好きと寄りそって水晶橋で見る夜の川
 好きやねんぽつりと告げた恵比寿橋震える足をまた踏みしめて

なお、選者道浦氏のご希望で短歌を作る高校生を対象に、その励みにと「青春奨励賞」20首が選ばれました。

また、関連事業として、平成18年2月4日に選評会、2月1日から2月18日まで展示会「百人一首の世界～大阪百人一首入選歌によせて～」を開催しました。約1,900人の方々にご来場いただきました。ありがとうございました。

*大阪百人一首の入選歌はこちらからご覧いただけます。

<http://www.library.pref.osaka.jp/nakato/event/uta100up.html>



平成18年度 夏の展示報告

資料に見る『 錢と貨幣のすがた 』

～大阪府指定文化財・指定記念

「オランダ記念貨幣誌」によせて～

平成18年6月12日(月)～24日(土)

平成18(2006)年1月20日、大阪府指定有形文化財(典籍)に中之島図書館所蔵の貴重書『オランダ記念貨幣誌』が指定されたのを記念して展示会を開催しました。

(原題 Beschryving Der Nederlandsche Historipenningen)

神の名が書かれたテトラグラマトン記念貨幣や江戸時代に出版された貨幣資料とコイン、造幣局創成期のころの錦絵など図書以外の資料もあわせて約70点を展示しました。日ごろ目に触れない貴重書を身近に感じ取っていただけたのではないかと思います。

長雨が続く季節にもかかわらず、約1,300人の方々にご来場いただきました。この場を借りて篤くお礼申し上げます。

秋の展示会と講演会のお知らせ

人魚洞文庫データベース公開記念

『これが“おもちゃ絵”だ!』

～巨泉玩具帖に見る大正・昭和初期の郷土玩具～

川崎巨泉は明治後期から昭和前期にかけて大阪で活躍した“おもちゃ絵”画家。当館所蔵の巨泉のおもちゃ絵と、彦根の郷土玩具コレクター高橋狗佛くわぶつのコレクション(彦根市立図書館所蔵)の郷土玩具を並べ、いつかどこかで出会ったかもしれない郷土玩具の世界を巨泉の“おもちゃ絵”を中心に展示します。

会期：平成18年10月10日(火)～26日(木)

会場：中之島図書館3階 文芸ホール

後援：国宝・彦根城築城400年祭実行委員会

関連講演会

・「おもちゃ絵画家・川崎巨泉の仕事

—郷土玩具をめぐって—

講師：北原直喜氏(日本郷土人形研究会・代表世話人)

・「玩具絵本の系譜

—「江都二色」から「巨泉玩具帖」まで—

講師：石沢誠司氏(財団法人 京都文化財団

京都府立文化芸術会館館長)

日時：平成18年10月28日(土)

午後1時～4時30分 *事前の申込必要

問合せ先：大阪府立中之島図書館

大阪資料・古典籍課 TEL06-6203-0473(直通)